

2020年3月期 第3四半期
決算説明電話会議 質疑応答（サマリー）

日時：2020年2月7日（金） 16:15～17:00

説明者：取締役副社長 CFO・財務部長 宮崎純一

決算資料：https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/cf/s2020_02_07.pdf

■ 全社

Q1：下期計画に対して、セグメントごとの営業利益の強弱感を教えてほしい。

A1：4Q(1-3月)の営業利益の見通しはまだ不透明ではありますが、化学品は3Q(10-12月)に引き続き4Qも下ぶれると考えられるので、下期計画対比では下ぶれて着地する可能性が高いです。機能性材料は3Q・4Qともに上ぶれて、下期としても計画を上回る見通しです。農業化学品・医薬品は概ね下期計画通りだと見えています。

■ 化学品セグメント

Q2：3Qはメラミンの市況やテピックの出荷などで回復があまり見られなかったが、4Qは回復を見込めるのか教えてほしい。

A2：11月の上期決算発表時には、下期に多少回復を期待していましたが、3Qの実績は非常に良くない状況でした。足元の状況からすると、3Qから4Qに向けても回復は難しいと見えています。

■ 機能性材料セグメント

Q3：新型コロナウイルス（COVID-19）の影響はどうか。

A3：ディスプレイと半導体についてお客様の稼働状況を確認しましたが、2月5日の時点で全て正常に稼働しており、現在のところ影響は出ておりません。

Q4：4Qの半導体メーカーの稼働の見通しはどうか。3Qから予想以上に早く回復してきたと思うが、4Qに回復が鈍化することはないか。もしくは回復がさらに加速するように見ているのか。

A4：4Qも3Qに引き続き稼働状況の回復が続くと見えています。

■ 農業化学品セグメント

Q5：フルララネルは4Qで大幅増収を見込むが、その確度はどうか。

A5：4Qの確度はかなり高いと思っています。

Q6：フルララネルの最終市場での在庫調整はもう一巡したと見ていいのか。来期以降はどう見ているのか。

A6：在庫調整についてはまだ確たる情報を得ていません。そのため来期についてもわかりません。

Q7：ゾエティス社がシンパリカトリオという三種混合剤（内外部寄生虫薬）を上市予定だが、ブラベクトの競合剤としてどのように見ているか

A7：シンパリカトリオの属する内外部寄生虫薬の市場規模は、ブラベクトが主に属している外部寄生虫薬と比較して、限定的であり大きくはないと推測しています。動物薬の最大マーケットであるアメリカにおいて、内外部寄生虫薬へのニーズがあまり大きくないようです。フィラリアの発生はアメリカ南東部へ集中しており、アメリカ西部などではニーズが低いようです。

また、動物薬メーカーとしては、混合剤は単剤よりも割り引いて販売する必要があるので、あまり妙味がないと考えられます。ゾエティス社は、単剤の上市が遅かったため、ブラベクトなどの先行品に対抗するために混合剤を出してくるのだろうと分析しております。ブラベクトを販売している MSD*社は、品ぞろえの観点から混合剤の開発を進めてはいますが、メインで取り扱うのはやはり単剤になると思われれます。

Q8：キノキシフェンの買収に関して、アメリカ向けの販売は自社で行うのか。

A8：アメリカではエージェントを起用しています。もともとアメリカにて当社の農薬を販売している中堅の農薬会社です。

Q9：今回のキノキシフェン買収のように今後も世界の農薬メーカーから事業の買収を狙っていくのか。

A9：当社のポートフォリオに合うものがあれば今後も検討していきます。

*MSD: 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門 MSD Animal Health 社の略称

以上